

1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

【中期目標・指標】

- 全国平均より+5ポイント以上
- NRTアンダーアチーパー 4%以下

【短期目標・指標】

- 全国平均より+3ポイント以上
- NRTアンダーアチーパー 5%以下

3. 指標にむけての取組

- 指導方法の工夫(全学級における算数科の複数体制・分割授業による指導の実施)
- NRTの結果を受けてのアシストシート(個人・学級を含む)の完全実施
- 補充学習(単元テスト70点未満児童の再テスト、複数体制による朝の活動の実施)
- 1年生からのきめ細やかな言語指導(MIMの実施)
- 家庭との連携による家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)
- 自分の考えを持ち、適切に表現できる授業研究の推進
- 朝の活動「言葉・算数・読書・漢字」タイムの充実

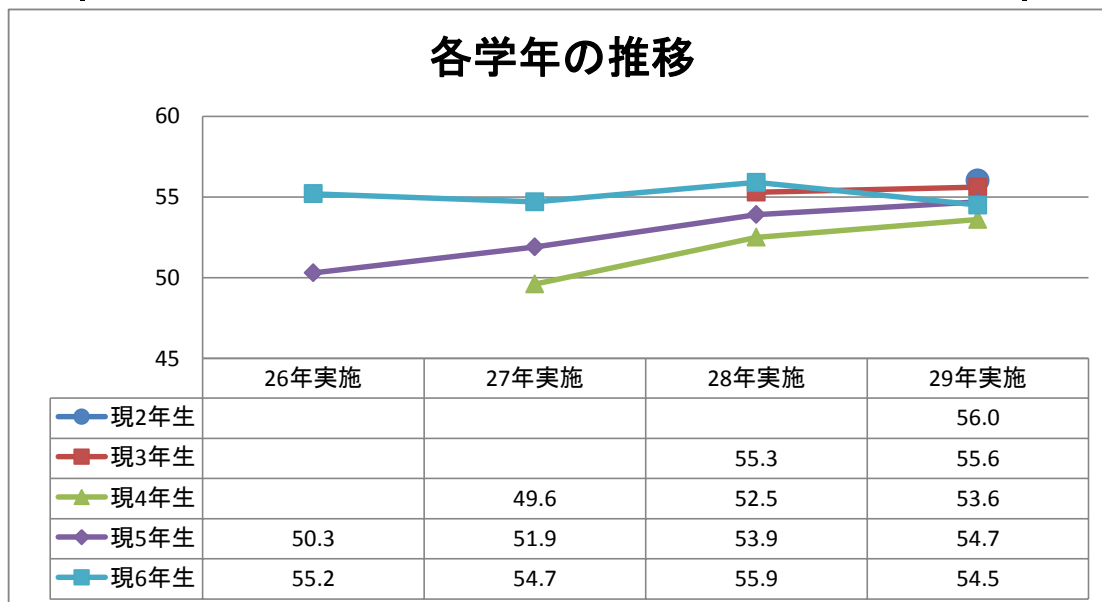
4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

(標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)		51.8	51.6	53.7	54.9
嘉麻市(B)		50.0	50.8	50.7	51.5
(A)-(B)		1.8	0.8	3.0	3.4
標準偏差値との差 (A)-(50)		1.8	1.6	3.7	4.9

各学年の推移



※ 27年度実施 現6年生の数値 転記ミスにより「54.7」に修正

5. 各学校における分析

- 全校の結果は昨年と比較して、国語科が1.3ポイント、算数科が1.2ポイント高くなっている。全職員による朝の活動の取り組みや算数科の複数体制などの日常的な授業改善の取り組みが成果として現れている。また、アシストシートや定着度テストの実施及び単元テストの再テスト等も効果があったものとする。さらに、家庭学習の充実も見られ、保護者の協力もその一因であるとする。これは、昨年度目標としていた家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)の達成率が90%を超えていたことからもうかがうことができる。
- 今年度の学力向上プラン全体計画では、アンダーアチーバーの児童の短期目標を5%以下としており、数値目標を達成することができた。上にも述べた個に応じたきめ細やかな取り組みが成果を上げているものと考えられる。

6. 各学校における今後の取組

今回、国語科の言語事項の領域のみ、複数の学年で課題が見られた。これは、ここ2年間の、全国学力・学習状況調査における課題と同じであり、各学年に応じた短期的・集中的な取り組みを行う。

(検証改善サイクルの確立)

【日常の授業や学校生活における取り組み】

- 指導方法の工夫を今後も継続する。(算数科のすべての単元における、複数体制の実施)
- 読みの基礎・基本となる言語事項の取り組みをこれまで同様行っていく。
 - 国語・・・授業(前学年のふりかえり)、「言葉・漢字タイム」、家庭学習などで補充学習をしていく。
 - 算数・・・授業(前学年のふりかえり)、「算数タイム」、家庭学習などで補充学習をしていく。
- 個人・学級アシストシートの活用・・・2学期当初の補充学習 アシストシート
アシストシート全領域の活用・・・2学期後半(運動会後)
- 授業に書く活動・交流活動を多く取り入れる。(主題研究の日常化)
 - ・自分の考えを理由や根拠を示しながら書き交流する。・条件付きの作文を書く。
 - ・式の意味を書き、交流する。・学習のまとめを自分の言葉で書く。
- 講師招聘による、校内研究の実施及び全学級授業公開による授業改善の取り組みを行う。

【家庭との連携】

- NRTの結果の公表を行い、これまでの取り組みとその成果、今後の課題を共有し、家庭学習の習慣化についての協力を求めていく。
- 家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)の達成率90%以上を今年度も目指していく。(4年生以上の学年では毎日、自主学習の取組を行う。)
- 土・日の10分間読書の取組を推進していく。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、以下の事項について支援する。
 - 学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を実施する。
 - 短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。
- ◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備するために、個に応じた支援に向けて、学習の個別化を促進する教材の選定や提示を行う。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進するために、「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。